

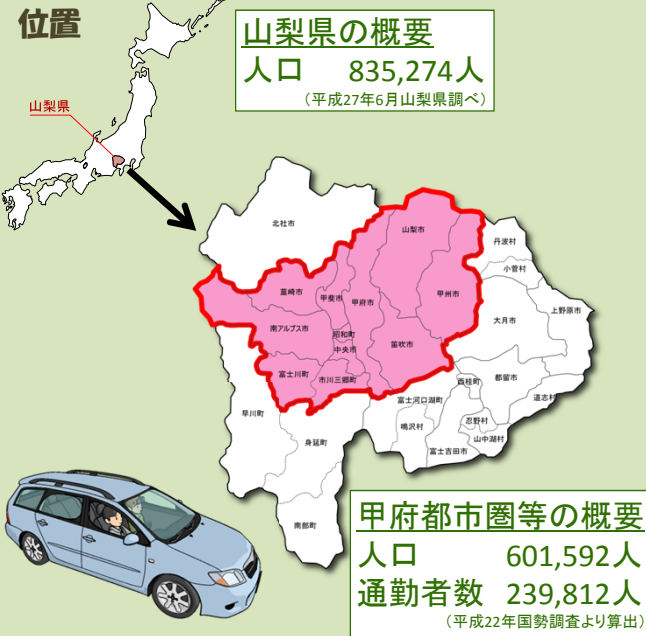
# クルマ中心の山梨県における”エコ通勤”への取組みについて

山梨県 県土整備部 都市計画課  
八千代エンジニアリング(株)

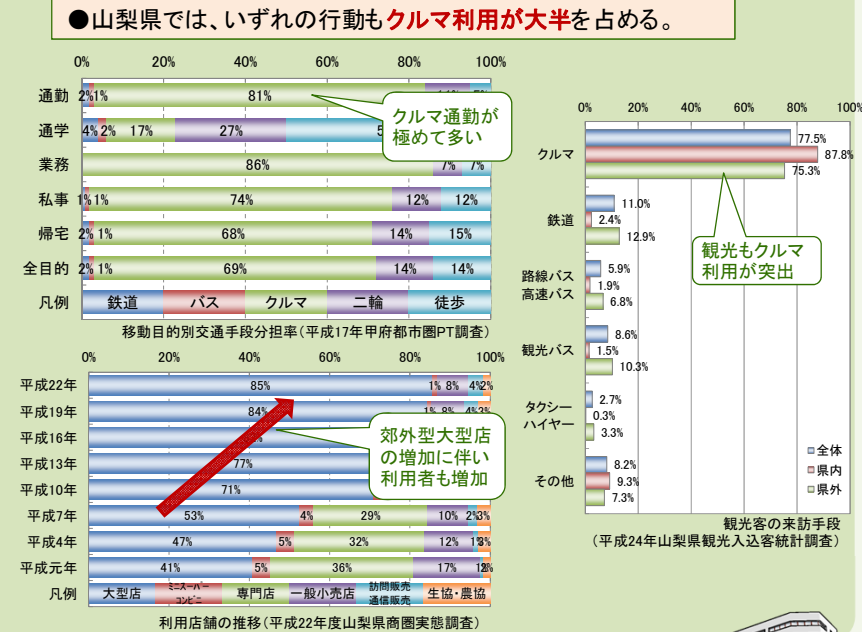
～Eco-friendly Commuting Challenge in Yamanashi～

## 1 背景

### 山梨県の紹介



### 山梨県のクルマ利用の特徴



## 2 MMへの取組み

### 山梨県におけるMMへの取り組みの経緯と内容

- MMの具体的な取組みには、すぐ始められるものから抜本的な取組みまで多様なため、まずは**“通勤”**に着目し「**事業所従業員のエコ通勤**」の試行・調査を開始。
- チラシや小冊子、体験談による動機づけとともに、アンケートを実施。
- 通勤などの現状や意向等を把握し、今後の**方向性・可能性を模索**することが目的の一つ。
- さらにアンケートへの回答を通じて、回答者の皆さま**一人一人に考える機会を提供**することが、ねらい。
- これらに**継続して取り組み、徐々に定着**していくことを目指す。
- さらに、買い物など**通勤以外の日常の移動**にも着目し、居住者、転入者等を対象とした**基礎調査**も開始。



※この取組みの間、できる人は、できる時に、できる範囲で自発的にクルマ通勤を見直し

**エコ通勤アンケート(昨年度)**

対象事業所	参加状況
継続4年目事業所	大手事業所中心 8事業所
継続3年目事業所	中小事業所中心 35事業所
継続2年目事業所	県庁舎4事業所
継続1年目事業所	中小事業所・大学52事業所
新規事業所	中小事業所・県庁舎 47事業所

**事業所従業員以外の基礎調査(昨年度)**

アンケート対象	回答状況
転入者	転入者 113名
転入者(追跡調査)	同上68名
居住者	駅前地区 47名
来街者	345名

## 3 事業所の従業員を対象としたエコ通勤アンケート

### エコ通勤アンケート参加者、エコ通勤実践者が増加。

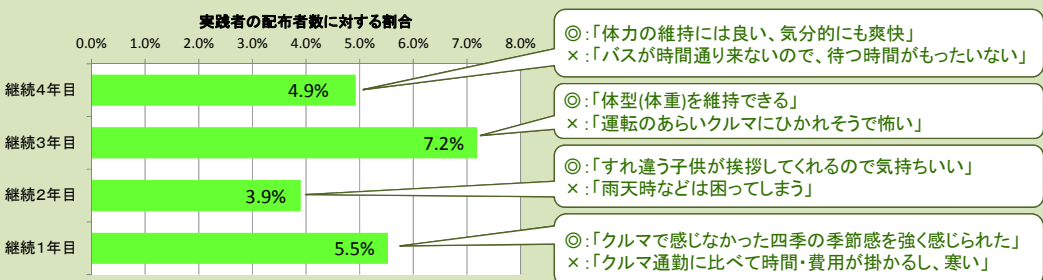
- 最長で4年間継続してアンケートに参加している事業所もあり、各年度で多くの事業所、従業員の参加が得られている。
- 毎年、新規の回答者があり、事業所内でアンケート**参加経験者が増加**。

**エコ通勤アンケート回答者数**

実施年度	継続4年目事業所	継続3年目事業所	継続2年目事業所
平成22年度	1,032人		
平成23年度	789人	563人	
平成24-25年度	720人	314人	31人
平成26年度	542人	337人	58人

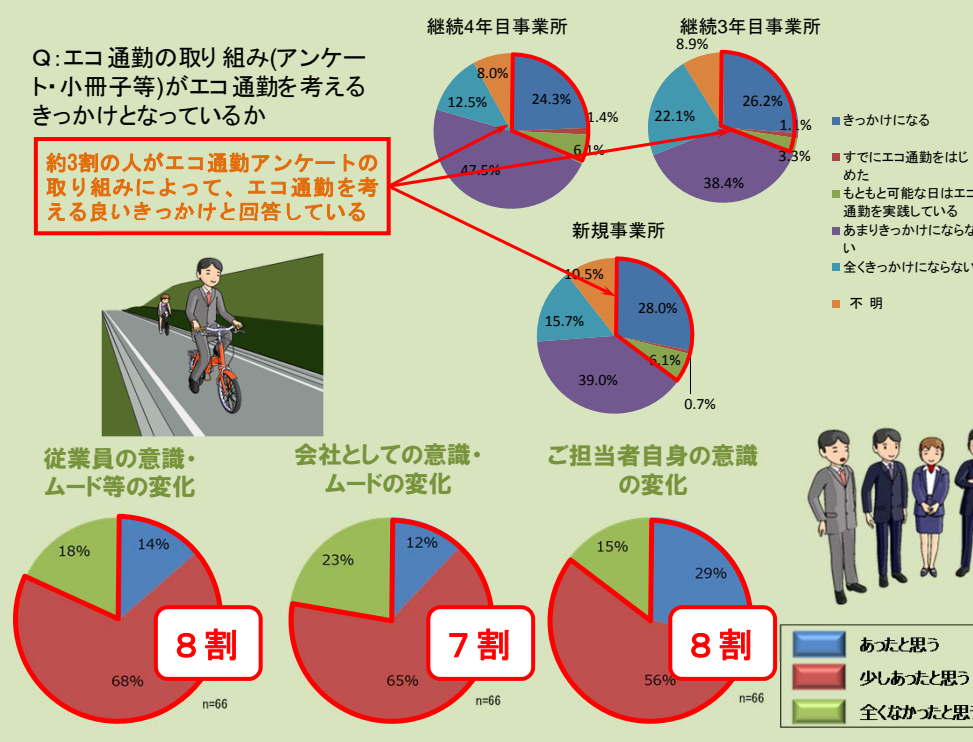
参考:参加者数減少理由は、従業員の削減(雇用縮小)や異動の他、担当者判断での配布対象部署の絞り込み等。

- 事業所が**複数年継続**し取り組むことで、一定の参加者、実践者が得られる。
- 実践者の体験談で、「**案外できた**」「**気分がいい**」「**健康に良い**」という肯定的意見の他、「**時間が気になる**」「**寒い**」「**クルマがこわい**」等の意見も見られた。



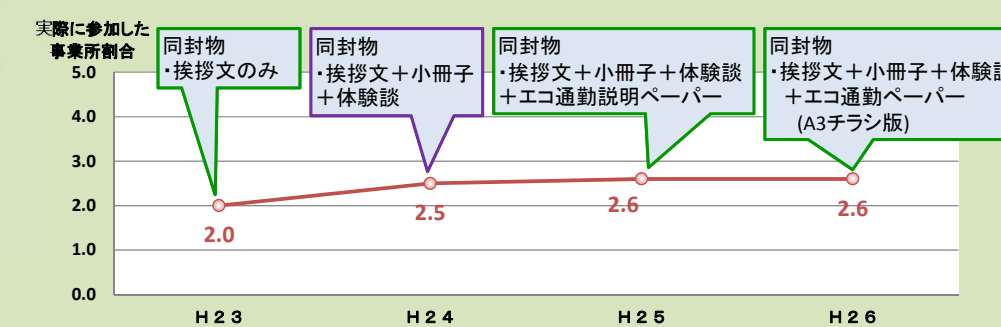
### エコ通勤に対する意識等が変化。

- アンケートで考えることで、通勤方法を見直すきっかけとして実感されている。継続した取組みで、**事業所内で徐々に定着**も見られる。
- 特に**担当者自身**の、エコ通勤に対する意識の変化が大きい。



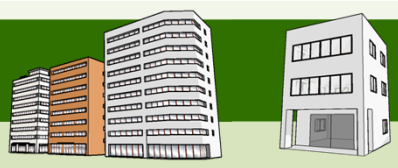
### 事業所自体の参加を増やすための工夫・模索。

- (事業所の参加が得られれば、従業員の参加・実践が得られる。問題は事業所自体の参加割合。そこで…)
- 参加の呼びかけの際、**小冊子やチラシ、体験談、ポスター**を活用。
  - ツールを同封して呼びかけることで、参加事業所が増加する可能性。





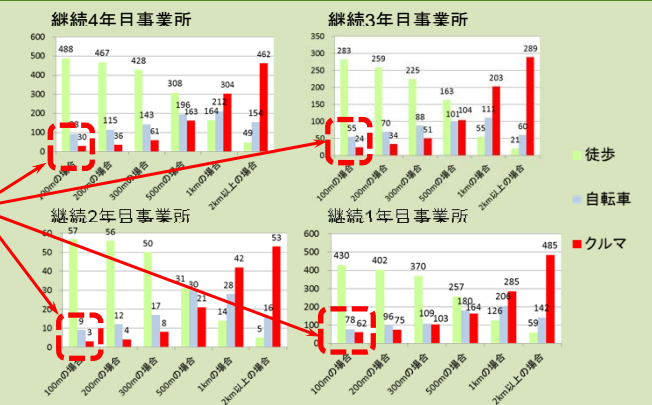
### 3 事業所の従業員を対象としたエコ通勤アンケート



#### ■今年度新たに確認されたクルマ利用の現状

- 移動距離と交通手段の関係で、500m前後でクルマ利用者が増加。ただし全体の約15%が300m程度の距離でもクルマ利用。
- 近距離であってもクルマ利用者が存在。

Q:各距離で、普段使うことがある交通手段について

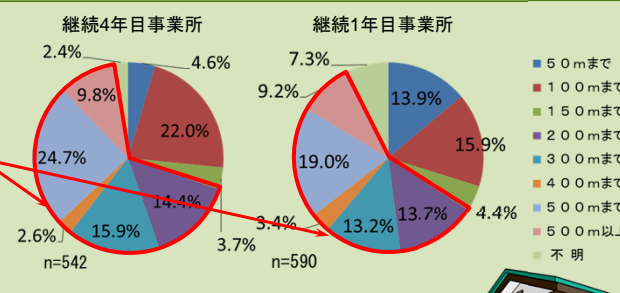


100m以下でもクルマを利用する人が存在

\*ごく近所のコンビニに行く際にクルマを利用する人も。(別途実施の来街者アンケートより)

- バス停まで距離が200m程度で、約半数の人がバス利用可能との意見(近い)。

Q:目的地までバスで行く場合、利用を検討できる出発地からバス停までの距離



半数を超える人が、バス停までの距離が200m以下でないとバス利用できないとの意向

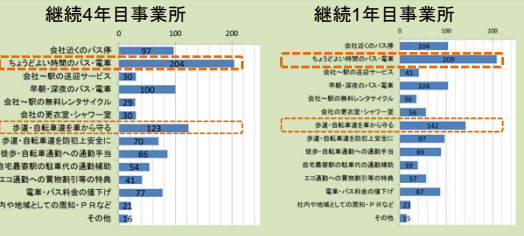


- バス・電車ダイヤの利便性に対するニーズが最も多いが、次いで危険なクルマから徒歩や自転車利用者を守ることへの要望も多い。

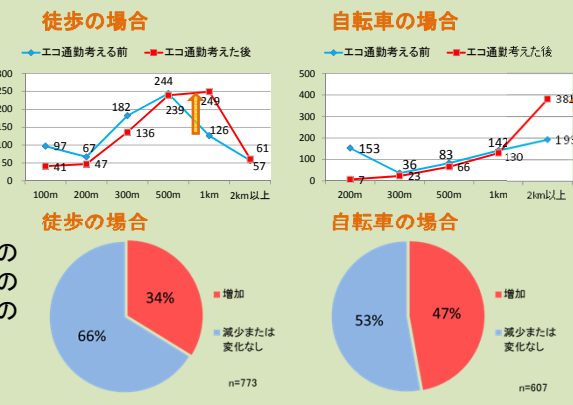
Q:エコ通勤の取り組みを続けるための要望



- エコ通勤を考えた結果、徒歩・自転車で、がんばって行ける距離が増加する可能性がある。なお自転車のほうが距離が上昇する人の割合は高い可能性がある。



Q:交通手段別の普段許容できる距離及び頑張った時に許容できる距離(今後の意向)



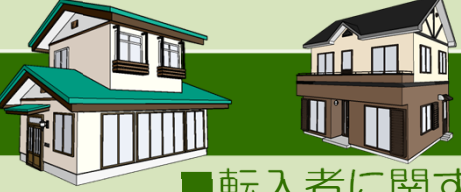
Q:交通手段別に普段の場合と頑張った場合での許容できる距離の増減の有無(今後の意向)

#### ■調査結果から得られた傾向・今後のヒント

- エコ通勤アンケートや小冊子等が考える機会となり、意識や行動の変容につながっている可能性がある。
- 事業所としてエコ通勤アンケートに取り組むことで、一定のエコ通勤実践者(3~5%程度)が得られる。
- 事業所が継続的に取り組むことで、社内で取り組みが拡がり定着する可能性がある。
- ただし、参加する事業所の割合が問題。
- 事業所に参加を呼びかける際、ツールを同封する等の工夫で事業所(担当者)の意識・認知状況が変わり、参加率が向上する可能性がある。

- エコ通勤を定着・継続するためのアンケート等の手法の工夫や新たな方策を模索。
- 事業所の担当者への動機づけやモチベーションを持続する方策を模索。
- 目標について整理し、試行・調査を行いながら、達成に向け必要となる方策メニューや工夫を模索、抽出。

### 4 新たな対象に関する基礎調査



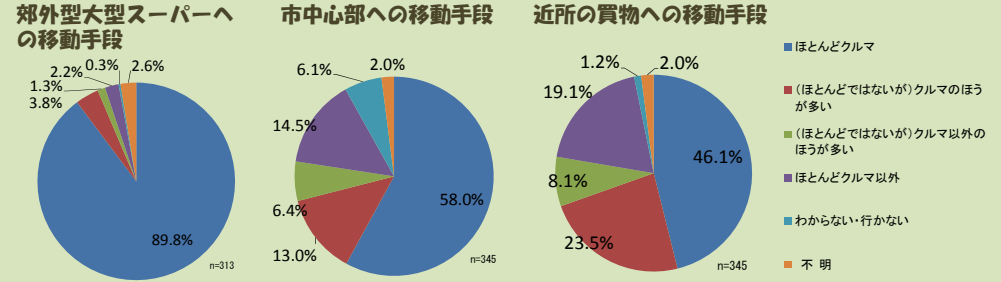
#### ■基礎調査の実施状況

- 通勤以外の行動についても、『行動変容の可能性はあるか』『着眼点は何か』などの、基礎的な調査を過年度より開始。
- 今回は、過年度アンケートを実施した転入者に対して追跡調査を実施。
- 来訪者アンケートは、市街中心部だけでなく郊外型SCでも実施。



#### ■市街地の来訪者に関する基礎調査

- 普段の買い物は、郊外大型店へ行く人が多い。郊外に限らず、主な交通手段はクルマであり、クルマ中心のライフスタイル。
- まちなかへ、クルマ以外で来訪した時のメリットとして、駐車場の時間や場所を気にしなくてよい、あちこち回れる、お酒を飲めるといった意見も多く、そこから回遊行動や滞在時間の増加につながる可能性が示唆される。



#### ■転入者に関する基礎調査

- 転入時点で、すでに『甲府はクルマがないと不便なまち』との認識。
- 転入後に利用する交通手段として、クルマを想定する回答が最多。次いで徒歩・自転車を想定する意見が多い。電車・バス等の公共交通利用を想定している人は少数。

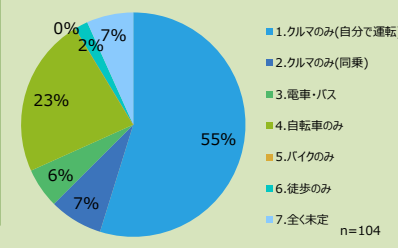
#### ■転入者に関する追跡調査

- 甲府市内が転入時に感じた通り「クルマがないと不便なまち」、という認識の人が7割。
- ただし転入者は、周囲の人が近距離でクルマを利用していると感じるのに対し、自分は転入後も近距離のクルマ移動が増えていないと認識(雰囲気にならなかった可能性)。
- 以後もクルマ以外の利用を実践しようという人が約半数おり、継続的な呼びかけの効果が見られる。

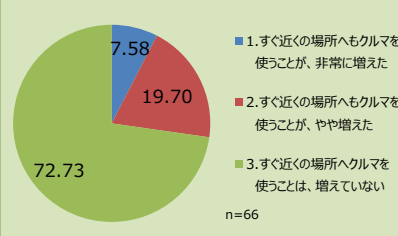
#### ■居住者に関する基礎調査

- 長い間住んでいる人が多く、鉄道駅、路線バスが近い立地条件だが、住民の中には、不便との認識が多い。
- クルマ利用が定着しており、『バスに馴染みがない』という人もいる。

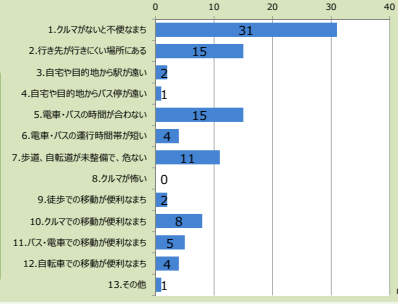
#### 転入後主に利用予定の交通手段



#### 近くの場所への移動のクルマ利用頻度



#### 甲府市内交通に対するイメージ



#### ■調査結果から得られた傾向・今後のヒント

- 「クルマでなければ不便なまち」というイメージが定着し、クルマ中心のライフスタイル。クルマ利用が過度になっている可能性があり、呼びかけ等の「きっかけ」があれば行動変容の可能性はある。
- 転入者は、転入時点ですでに「クルマがないと不便なまち」とのイメージ。人に聞いて先入観を持つ人も多い(転入前の情報源にも着目)。
- 転入後、クルマ以外の交通手段を試した人、短距離のクルマ利用を控えた人もおり、転入時のアンケート、小冊子等で「考える機会」を提供したことで意識の変容に寄与する可能性がある。
- 長く住んでいる人が多い地区では、クルマ利用が定着。バス・電車に馴染みがない人も多い(高齢者等もわかりやすい情報、クルマが運転できない将来の不安、健康志向等に関連し工夫できないか)。
- 買い物もクルマ中心。市中心部へ行く人は減少(店舗の魅力の問題もある)。クルマ以外で行けば、賑わいの創造に繋がる可能性。近くのコンビニへもクルマ(超近距離のクルマ利用は見直せないか)。

- 今後、基礎調査を継続し、ターゲットやヒントを模索。

